



クラゲがさすのは、人の血液型でちがうの

クラゲは、毒針をさして獲物をとらえる

クラゲは、自分の体の近くに獲物がきたら、うでをのばして、毒針をつきさし、毒で弱った獲物をとらえて食べます。クラゲのかさのふちや、下にぶら下がっている足のようなものには、触手がついています。触手には、何かがふれたとたんに、毒が入った針が飛び出すようになった、ふたのある注射器のようなものが、たくさんついているのです。

クラゲは触手がふれたら何でもさす

たまたま、クラゲが近くにいるのに気づかずに、人間の体が、クラゲのうでにさわったりすると、この毒針がつきささり、さされた所は赤くはれあがり、痛い思いをしなければなりません。クラゲが人間の血液型によって、さしたり、ささなかつたりすることはありません。人によって、毒にびん感だったり、あまり強く感じなかつたりすることはありますが、それは、血液型とは関係ないはずですよ。

何回もさされると、とても危険

ただし、だれでも、同じ種類のクラゲに2回以上さされると、さされる回数が増えるほど、体が毒を強く感じるようになり、ショック死することもあります。海に行ったときは、クラゲには、注意しましょう。

(監修・安部 義孝)

